

10月27日(日)

13時30分～17時 資料代1000円

会場:港区立男女平等参画センター
(リーブラ)・学習室C

東京都港区芝浦 1-16-1 みなとパーク芝浦 2階
TEL:03-3456-4149、JR 田町駅東口(徒歩5分)、
都営浅草線・三田線三田駅 A6 出口(徒歩6分)



第39回学習会

資料代1000円

※事前申し込み不要

シリーズ

7回目

731部隊の細菌戦



1937年大牟田「爆発赤痢」の謎

講師 奈須 重雄 さん (731部隊研究者)

1937年9月、福岡県大牟田市に赤痢・疫痢が爆発的に流行した。患者は約1万2千人、死亡者は712人に達した。当時の市の人口は、約11万人であった。子供の治療を求めて、親たちは奔走し、「わが街にはや一角の氷すら売る店なしといふにおびゆる」という状況になった。

敵国側スパイによる細菌散布、毒ガス製造中の三井三池染料工場の毒煙、市当局の滅菌装置不備、水源地管理人の不始末説などの流言が飛び交ったという。

また、赤痢予防錠の大量投入、防疫研究室の囑託となる小島三郎(伝染病研究所教授兼内務省防疫官)による事態の誘導が行われた。

内務省予防局防疫課は、この事態を「九・二五爆発赤痢」と命名した。9月21日から患者が発生していたにも関わらずに、「九・二五」とした。これが、謎を解く鍵の一つかもしれない。



《今も政府が認めない731部隊とは?》

日本軍中枢は国際法を無視して細菌戦部隊(のち731部隊と称す)を1930年代から中国黒竜江省に設けた。731部隊は、細菌兵器の開発・製造のため、3千人を超える中国人・韓国人・ロシア人などを敗戦までに虐殺した。他方、細菌作戦は1940年から1942年にかけて中国の吉林省(農安)、浙江省(衢州・寧波等)、湖南省(常德)や江西省(広信・広豊・玉山)などで実施されペストやコレラを大流行させ少なくとも3万人の住民を虐殺した。

731部隊問題関連裁判の裁判日程

傍聴をお願いします!

- ・化学学校記事 情報公開裁判【東京地裁民事第3部】
9月25日(月)午前10時30分～4時30分〔人証調べ〕(522号法廷)
- ・衛生学校記事 情報公開裁判【東京高裁第7民事部】10月31日(木)午後2時(511号法廷)控訴審第3回

主催:NPO法人 731部隊・細菌戦資料センター

2024.9.10

共同代表 近藤昭二【ジャーナリスト】・王選【細菌戦犠牲者遺族、浙江省歴史学会常務理事・抗日戦争史研究分会会長】・
奈須重雄【731部隊研究者】

◆お問い合わせ:一瀬法律事務所:東京都港区西新橋1-21-5/ Email: info@ichinoselaw.com 担当元永(もとなが)
Tel:03-3501-5558 Fax:03-3501-5565 ◆ Website: http://www.anti731saikinsen.net/